

R. N. メディア創造学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校の時に韓国アイドルが好きになり、アイドルが話している言葉を理解したいと思い韓国語の勉強を始めました。韓国語の勉強をするうちに、実際に韓国に行って韓国文化をもっと知りたいと思い、留学を目指すようになりました。

② 留学を目指してから出願までの韓国語学習方法

『できる韓国語』という教材を使いながら毎日勉強していました。また、好きな韓国アイドルが出ている番組を字幕ありとなしで何回も見返したり、好きな曲の歌詞を翻訳したりして楽しみながら勉強していました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

学校の授業が忙しくあまり時間は確保できませんでしたが、留学決定後もそれまでと同じ方法で韓国語の勉強を続けました。ビザの申請については、事前に韓国大使館に電話して必要書類を確認し、後日大使館に行って申請しました。申請から約 1 週間でビザが発行されました。

④ 現地到着後

事前にソウル女子大学が予約してくれていた送迎タクシーに乗って、大学の寮まで移動しました。寮に着くと、ソウル女子大学の国際課の方が寮についてとこれからの予定について簡単に説明してくださり、それらについて詳しく書いてあるパンフレットをくれました。最初の 1 週間に寮のオリエンテーションと寮費の支払い、2 週目に授業のオリエンテーションと韓国語のレベルプレースメントテストがありました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

初めの 2 週間はオンライン (ZOOM) で受け、コロナの感染者が多くなかったので 3 週目以降はオフラインでした。オフライン時は、50 周年記念館という建物で授業を受けました。建物内にはパン屋さんや和食、コンビニがありよく利用していました。寮からも約 10 分しかかからないので移動が楽でした。

◆ 授業内容、課題、試験

2 限に分かれており、1 限目は文法や単語の勉強をしました。3 級では副教材の文法問題を解く課題が多く、5 級では習った文法や単語を使って、テーマに沿った文章を作る課題が毎日出ました。2 限目には主に読解と作文の練習をしました。中間・期末テストはそれぞれ 2 日間に渡って行われました。短い劇を作り発表するテスト、先生の質問に口頭で答えるテスト、読解・文法・作文のテストがありました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

主にオンラインで受けました。科目によって ZOOM で行われたり、オンデマンド授業だったり、ZOOM とオンデマンドの混合だったりしました。また、コロナの感染者が少なければ対面授業になったりもしました。

◆ 履修科目

・ Korean Popular Culture and Korean Wave

韓国のアイドルや映画、ヒップホップについて英語で学びました。K-POP に興味があり、学科の応用・各論科目に読替ができる可能性が高かったので選びました。

・ Reading World Masterpieces

古典から現代のものまで、様々な世界の文学作品を英語で学ぶ授業でした。語学堂の時間と被らず、自分の英語のレベルに合っていると思い選択しました。

・ The Psychology for the Human Object Relations

主に発達心理学について勉強しました。語学堂の時間と被らず、韓国語で受ける正規の授業を受けたいと思い選択しました。

・ Beginning Visual Language

カメラの撮り方や色彩、映像編集について学び、チームで2回映像作品を作りました。映像作りに興味があったので選択しました。

◆ 授業、レポート、定期試験

・ Korean Popular Culture and Korean Wave

録画授業（オンデマンド）型のクラスでした。毎週、教授が録画した授業動画を見て、その週の課題を次週までに提出する形式でした。課題として e-class の掲示板に自分の意見を書くことが多かったです。中間と期末は、授業で扱ったテーマについてレポートを書いたり、動画を作ったりと好きな形式で提出するというものでした。また、テストとは別にチームになってミュージックビデオを分析してレポートにまとめる課題もありました。

・ Reading World Masterpieces

ZOOM と録画授業の混合型クラスでした。毎週 ZOOM で授業があり、また次の授業日までに録画された動画を見て、課題を提出しなければなりませんでした。授業では教科書に沿って世界の様々な文学作品の解説を聞き、課題として読解問題を解きました。中間と期末テストはどちらもオンラインで行われ、選択と穴埋め形式でした。他にはクイズが1回と、パートナーと一緒に1つの文学作品を読解してエッセイ形式で質問に答える課題がありました。

・ The Psychology for the Human Object Relations

この科目は全ての授業が ZOOM で行われました。授業では、主に発達心理学の理論や理論を唱えた学者について学びました。また、授業のはじめに毎週瞑想をする時間がありました。課題は瞑想をした感想を書くものがありました。テストは中間と期末共に、授業で習ったことで自身の精神的な成長に役立ちそうなことについて記述するレポートがありました。

・ **Beginning Visual Language**

この科目は Z O O M と録画授業と対面授業の混合型クラスでした。毎週カメラのショットやアングルについて学んで e-class の掲示板に課題を提出しました。また、それ以外にも音響や色彩、動画の編集方法などについて学びました。中間と期末テストはグループになって動画を作成しました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

春学期はコロナの影響でありませんでした。秋学期だけ S W U バディという制度に参加しました。S W U バディ制度では、韓国人学生とペアになって一緒に遊びに行ったり学校を案内してもらったり、課題を手伝ってもらったりしました。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

学期中（春・秋学期）は学内にあって費用も安く済むのでシャロムハウスという寮に住んでいました。キャンパスまでは徒歩 10 分と近くて便利でした。春学期は 4 人部屋を二人で、秋学期は 4 人部屋を四人で使っていました。部屋にはトイレ、シャワー、冷蔵庫、勉強机、ベッド、クローゼット、下駄箱がありました。また、共同で使える電子レンジ、ウォーターサーバー（水とお湯）、テレビ、ソファもありました。洗濯室もあります。（ジムやシャワー室もありますが、コロナのため利用不可でした。）そして、ロビーに ATM とコンビニがあって便利でした。食事は寮の食堂が閉まっていたため、主にデリバリーを頼んでいました。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

休暇中は、平日 9 時から 13 時まで毎日語学堂の授業を受けていました。春・秋学期の授業の最終週と休暇中（夏・冬季）の語学堂の最初の週が被ったので大変でした。一年間の留学を通して、長期休暇は祝日の連休以外ありませんでした。ですが、春・秋学期と比べてクラスの人数も多く（10～15 人程度）、様々な国の人と出会って交流関係が広まってとても充実していました。

⑩ **留学期間中の就職活動の取り組み**

同志社女子大学キャリア支援部が配信している就活の動画を見たり、親に日本から SPI3 の教材を送ってもらって少し練習したり、就活サイトが行っている WEB 合同説明会に参加したりしていました。また、日本にいる友達に就活のために何をしているか聞いたりもししていました。

Ⅱ. 留学の感想

① **留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること**

語学堂で仲良くなった年上の日本人と台湾人の友達と一緒に、色んなところへ遊びに行ったことが一番思い出に残っています。違う国の人と仲良くなれたのはもちろんですが、社会人と友達になる機会なんて滅多にないので新鮮でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

夏休みに高熱が5日ほど続いた時が一番つらかったです。高熱が続いていたので夜中に急遽PCR検査を受けに行ったり、一緒に住んでいるルームメイトも1日ほど隔離されなければならなかったりして大変でした。また、コロナの影響で寮の食堂が開いておらず、春・秋学期はキッチンが無かったためデリバリーを頼んでいたのですが、食費が結構かかってしまいました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

韓国人は、メッセージではなく電話をしている印象が強かったです。特に私が高熱を出した際、寮母さんがメッセージではなく、毎回電話で連絡をしてきたので驚きました。電話をかけてくる頻度も高くて驚きました。私自身電話が苦手な方なのですが、体調が悪くしんどい上に、その時は韓国語もあまり上手く話せなかったため、電話ではなくメッセージで連絡してほしいかったです。。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

語学堂の先生がとても親切で、授業中も丁寧に教えてくれます。国際交流チームのスタッフも親切にサポートして下さりました。悪かった点は、点呼・閉門時間が早く、遊びに出かけた時は少し早めに帰らないといけなかった点です。学校から駅までも時間がかかって不便でした。ですが、その分ソウルの地下鉄やバスに詳しくなれました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

コロナの影響で、ほとんどの授業がオンラインで行われたため、パソコンは必須でした。また、日本食が恋しくなった時のためにインスタント味噌汁やレトルト食品を持っていきました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

日本にいる時は、韓国語を話す機会が無くスピーキングが苦手だったのですが、授業で学生数が少ない分たくさん話す練習ができて苦手意識がなくなりました。もちろん、授業以外でも韓国人の友達や外国人の友達と韓国語でたくさんお話ししました。

また、留学前は勉強を休まずに長時間してしまっただけでエネルギーがなくなりがちでしたが、韓国の大学は日本の大学に比べて勉強量が多いため、日本にいた時のようにしては集中力が持ちません。そのため上手に休む・手を抜く方法を探って、自分に合った方法を何個か見つけることができました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もしかしたらコロナだからどうなるか不安だと思っているかもしれませんが。確かにコロナの影響でできないことはたくさんありました。ですが、考え方と行動次第でいくらでも「できないこと」を「できること」に変えていくことはできます。ありきたりな言葉ではありますが、留学を通して様々な人に会い、様々な価値観を知り、たくさんの経験をしてこれからの人生に活かしてください。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は韓国とはあまり関係ないのですが、ゲーム関係の仕事に就きたいと考えているのでそのために頑張っていきたいと思います。そこで英語と韓国語を活かせれば尚良いなと思っています。

Ⅴ. 写真



夏季休暇中に、ルームメイトたちと一緒に寮で自分の国の料理を用意してパーティーをした時の写真です。フランス人の友達はクレープ、ミャンマー人の友達は鶏肉を甘酸っぱく煮たもの、モンゴル人の友達はミャンマー人の料理のお手伝いを、日本人（私）は寿司を用意しました。



校内には猫がたくさんいたのですが、こちらはその中でも一番よく見かけた猫の写真です。毎日猫たちを見て癒されていました。